

## 第2回 協働のまちづくり推進特別委員会記録

令和4年4月12日（火）

開議 10時 00分

閉議 11時 45分

全員協議会室

- 【委員】 西田委員長、上野副委員長  
村木委員、村武委員、柳楽委員、岡本委員、芦谷委員、川神委員
- 【議長団】 なし
- 【委員外議員】 肥後議員
- 【事務局】 河上局長、松井書記、下間次長
- 

### 議 題

- 1 今後の取組方針等について

- 2 その他

○次回開催 4月19日（火）10時00分 全員協議会室

【別紙会議録のとおり】

【会議録】

[ 10 時 00 分 開議 ]

西田委員長

第2回協働のまちづくり推進特別委員会を始める。川神委員が少し遅れる。

1 今後の取組方針等について

西田委員長

当委員会は重要なテーマを掲げている。今後どのように進めていくか。第2次総合振興計画後期基本計画でも、若者が住みやすいまちづくりと併せて、協働のまちづくりを大きな柱に掲げている。この協働のまちづくりが市民にも浸透し、どのような展開になるかはこの特別委員会にもかかわってくると思う。探り探りかもしれないが、チャレンジする気持ちで進めていきたい。

先般、各委員から、取り組み課題や進め方について意見を出してもらったので、1人ずつ発表してもらいたい。

村木委員

資料の8番から16番までの取り組み課題を書いた。議員になって12月と3月の定例会議を経験し、全ての一般質問をまちづくりに関して行った。まずは定義の確認ということで、協働、まちづくりとは何かを聞いた。協働とは、尊重や当事者意識、役割分担であり、いわゆる社会教育の部分だと思っている。また、同じ目的のために共に考え、行動するというのが生涯学習の部門だと思っている。またまちづくりも、「地域の活動に参画」が社会教育の部分であり、「地域をより住みよくする」のが生涯学習の部門である。社会教育の手法と生涯学習の理念を持って動くこと自体が協働のまちづくりであると、その確認をいま一度できないかと思っている。

さらに、各地域における自治組織である町内会・集落・自治会の実態の把握。そして、地区まちづくり計画の実現が、協働のまちづくりのキーだと思っている。同じ目的のためにも共に考え、同じ目的を皆で掲げるためには間違いなく計画があるので、10番がキーだと思っている。

そして、新市まちづくり計画。合併当時から協働のまちづくりについてはうたってあった。いま一度そこを振り返り、島根県が提唱している小さな拠点とのかかわりが、今浜田でどうなのかという点も課題の一つだと思っている。

そして、その拠点である公民館とまちづくりセンターとの違い。私は、公民館は地域づくりにかかわる人づくり、まちづくりセンターはそれを実践して地域計画を実現する場所だと思っている。その違いについて、いま一度確認する必要があるのではと思う。

山水海の会派代表質問への具体的な回答は得られなかったが、自治区制度の振り返りの検証。協働のまちづくりが自治区制度にかわ

るものとして生まれたが、自治区制度がかわって何が課題なのか、何が不安なのかも検証する必要があると思う。

そして、新たに出た中山間地域の活性化のための共通事業。10億の基金。4年後これがどのような形で継承されるのか。中山間だけではなく、市街地におけるまちづくりも併せて検討する必要があるのではないか。

最後に、ヒトとヒト、ヒトやコト、ヒトとお金をつなげるコーディネーターと引き出すファシリテーターの役割を、いま一度新たな職として認め、推進していく必要があると考えて取り組み課題として上げた。

進め方としては、学習会や研修会の開催、まちづくりセンターへの訪問、センター職員、派遣社会教育主事2名や地域コーディネーターとの意見交換をしながら進めていく。まずは現状把握、実態把握を上げた。

自由記載として、講師としては、今お世話になっている牧野先生と、横山先生は特に公民連携を中心にされている。私の思いは五つある。これからまちづくりをするに当たってはビジョンが必要であり、そこにはコミュニティの地縁や志縁が必要であり、人口減少を補うためにAIやICTの活用があり、人の移動が大事である交通対策、そして公民連携。この五つが重なり合ってまちづくりはできると思っている。

そして、知識、意識、習慣。まずは知識を得ることで意識的にやっつけていこう、そして習慣になろうということで、防災も同じく知識という形で研修し、意識ということで訓練し、それが習慣化されて避難できるというイメージを持っている。何のためにやるのかを問いつつ進めていきたい。ヒト、モノ、コトとよく言われるが、お金と時間も必要だと思っている。

村武委員

令和3年度から始まった協働のまちづくりだが、大きく、公民館がまちづくりセンターになった。その目的は、地域住民とともに地域の課題を解決していくことだと思うが、1年間進めてきて、協働のまちづくりやまちづくりセンターになったことが市民に理解されていないし、まちづくりセンターの職員も理解が進んでいないのではと感じている。地域のさまざまな課題に取り組むことは必要だと思うが、その前に、拠点であるまちづくりセンターの機能を整理していかなければならないのではと感じている。

取り組み課題としては、協働のまちづくりを進める上で、まずは地域の活動拠点、そして地域のまちづくりを推進していく拠点のまちづくりセンターの社会教育とまちづくりの体制を整備していくことを上げた。公民館のときには社会教育を推進してきたが、そこがきちんと残っているのか疑問に感じるところもあるし、反対にまち

づくりについても活動が進められているのか疑問に感じている。

進め方としては、まず、まちづくりセンターとまちづくりコーディネーターへのヒアリングを実施してはどうか。委員で手分けしてまちづくりセンターに行ってヒアリングしたり、コーディネーターとは皆で一緒に意見交換をしたい。

2番目に、学習会や研修会の開催というところで、できれば我々だけでなく、まちづくりセンターやコーディネーター、担当職員と一緒に勉強会を実施してはどうか。推薦する講師としては、令和2年度に浜田市まちづくりアドバイザーとしてかかわってもらった東京大学大学院の牧野教授を推薦したい。

これらを踏まえ、当委員会で提言につなげていけばよいと思っている。

柳楽委員

取り組み課題は資料に書いているとおりで、これまでの自治区制度やまちづくり組織があること自体をわかっていない市民もいた。新しい制度が始まって1年経過したが、まだ知らない人も多いのではと思う。あくまでも地域住民が主体的に取り組むために必要な支援だと思うので、あまり行政が主動的になるのも問題だと思う。住民主体で課題解決に向かっていける支援を行っていく必要がある。

気になるのは、地域協議会の会場ではよい意見が出ても、実際にどこまでそれが地域住民までおりにしているのか。そうした取り組みができていない地域が多いのではないかと。せっかくよい意見が出されているので、地域協議会が終わった後に地域にどのように持ち帰るのか。そういった取り組みについても検討が必要ではと思っている。

進め方は、まちづくりセンター、コーディネーター、まちづくり組織や地域住民がどういった課題を抱えているかということと併せて、執行部がその地域を見たときに、どのような課題があると考えているかもわかった上で、地域の現状と執行部が感じている課題に乖離がないのかも把握した上で、どういった支援が必要なのかを提案していければよいと思っている。

岡本委員

浜田川から南側のまちを回って感じたことを話したい。まちづくりという観点では、旧市内、特に川から南側は、町内会そのものがないところもある。最近コーディネーターが指名されたということで、各町内会長に会って意見を聞く中で、21番に書いてあるように、これまで中山間地域の限界集落は高齢者ばかりだという話を聞いたが、旧市内の町内においても高齢者ばかりというところも散見された。すると町内会組織そのものが活動できない。それをどうサポートしていくのか。若者というか、動ける世代と一緒に組んでいくことを併せて考えないといけないが、これまでの慣例で組みたくない。今後どうしようかというのが課題として見えてきた。

22番は、80、90代の独居が増えた。そういう人たちも組み入れて

いかなければならない。町内会の世話役から何とかしてほしいと言われ、これも課題だと思っている。

23番は、若者がいないということは、次の世代に地域活動をバトンタッチできる環境にないので、このあたりを指導、協力してほしいという話があった。

24番は、次の世代のリーダーを育てていかないと、町内会同士のつながりができていかない。下のつながりが町内会同士の集まりになって全体のまちづくりという位置づけになると思うが、原点のところの問題があるという課題を持ちながらやるべきだと思う。

進め方としては、限界集落に対応している先進地や、世代間連携をしているところの視察、関係機関などとの意見交換をして、状況を把握する必要がある。

芦谷委員

入口と出口を整理してみた。周布・大麻・美川・長浜地区については自分なりに歩き回って把握しているつもりであり、その前提に立って記した。

25番は、組織が乱立しすぎていて組織化が進んでおらず、協働のまちづくりと言いながら、組織が地域に根づいていない気がしている。まちづくり推進委員会と自主防災組織などの組織化の状況や、町内の加入率、これらの目標を執行部とすり合わせながら先を見るということである。

26番は、人の問題である。地域の各種委員や民生委員などの任命や選出状況、欠員状況、活動状況、課題など。あまた役員があるが、任命してあるのか、欠員があるのか、活動しているのかも未把握である。

27番は、協働のまちづくりの手はずである。地区計画や協働のまちづくり推進計画、地域福祉活動計画などの策定状況や、計画間の整合、あるいは計画の進捗状況、計画推進の執行部の評価、これらの組織、人、手はずを整理して、協働のまちづくりを実現するために、今言った三つの点について実施状況、実態調査、執行部の評価などを把握し、当委員会で検証評価を行い、それに基づき改革案、提言をまとめるということである。

これに加えて言いたいのは、協働のまちづくりとあって、市役所がついてこいというのではなく、もっと地域から住民が参画して、そこで盛り上げていくような流れ、下から上へ流れる、そのようなことも記した中に織り込んでいる。

川神委員

協働のまちづくりについて、はっきり言って、住民がまだ十分理解してないというか、なじみが薄い。まちづくりセンターにかわったこともほとんどの人が知らない。協働のまちづくりが全くわからないといった実態がある。自治区制度のかわりに協働のまちづくりを進めるということで、かわりになっているかどうかは疑問だが、

こういう形で方針を決めて進むことは決して悪いことではないと思うが、先が見えにくい中で進んでいる。

まちづくりの原点は住民自治が基本だと思っている。あくまでも行政や議会はそれを支援するに過ぎない。地域住民が自分たちの地域課題を解決する話し合いの場所や方法を提供し、モチベーションを上げることができれば成功だと思うが、そのためにどうすればよいかを今我々も模索している。協働のまちづくり、まちづくりセンターの存在は、そういった人の後押しになっていかないといけないが、本当にそうになっているか。このあたりを我々は現場を見て、問題点を解決していく必要があるのではと思う。地域住民が課題解決をするときにどうやっているのか。例えば町内会で話すのか、地域協議会に上げるのか、まちづくり委員会等に持って出るのか、いろいろな方法があると思う。または議員に相談してみるなど、皆がどのように課題を解決しているか、私は見えていない。そのあたりを調査したいところだが、我々はまず実態をしっかりと把握しながら、その上でまちづくりセンターのあり方はどうなのか考えないといけない。まず現場の実態を知って、協働のまちづくりがどの程度市民に浸透しているのか、執行部がいろいろ考えて頑張っているのはわかるが、議会と執行部は協働するが、視点は異なっていないといけないのだろうと思う。執行部の視点と議会の視点が全く同じだったら我々は必要ないので、執行部を補完する、違うところから提言することで、執行部がやっていることがさらにグレードアップされるものでなくてはならない。まず住民へ浸透していないその隙間を埋めていくことが大事で、そのために当委員会でどのような活動をすべきかを協議する必要がある。

まちづくりセンターの運営課題について、現場の人はいろいろ言っている。不満もあれば要望もある。これも我々は十分知らないので、現場の実態を知るためにとにかく意見交換会をする。さまざまな関係者と意見交換しながら実態を把握していく必要がある。

29番は、住民自治活動の現況とまちづくりセンターの関与度も現場を知るために必要ではないか。

30番、住民自治地域のエリアの見直しは、いろいろな話が出ている。あまりにも広い地域で、このまま過去の流れで浜田地区、石見地区などあるが、そのエリアのくくりでよいのかという意見が出ている。浜田のエリア分けの見直しが必要ではないか。今後、小中学校の統廃合などいろいろな問題に影響する。

また、まちづくり委員会の組織率。行政が手を突っ込めないのなら、当委員会ができていないところと話をして、理解しながらつくっていく。100%カバーできたときに、真の協働のまちづくりが進むのではと思う。とにかく現場の実態を知ることを大前提に進めて

いけばどうか。

上野副委員長

まちづくり推進委員会ができた当時、公民館が事務局を持っていて、公民館に人を集めるためにいろいろ取り組んでいたが、今まちづくりセンターを回ると、これ以上何をすればよいのかという声をたくさん聞く。人口は減るし、行事にかかわる人も少なくなり、職員の負担もある。現場の実態を聞かないといけない。

人口減少により、昔からやっていたことができなくなる部分もあり、人材確保をしなければいけない。

昨年設置されたまちづくりコーディネーターも、新たによそから来てこんなことをこの地域でやろうという人でない限り、例えば役所を退職した人がコーディネーターになっても何をしてよいか。やめる人もいるし、長続きしないということで、うまく機能しなかったのではないか。

そのような意味で、進め方としては、今後、各まちづくりセンターで職員の声や地域団体の声を聞き、今までのことも検証しながら当委員会で協議していけたらと思う。

西田委員長

協働のまちづくり推進条例ができて新たなまちづくりがスタートしているが、形だけで中身を伴っているか。市民も公も含めて、一緒にまちづくりの意識を持って前に進むために、一人一人の意識がどれだけ変わっていくか。意識改革にどれだけ我々が貢献できるかが大きなポイントだと思っている。

それぞれ生活も考え方が違うのは当たり前だが、自分たちが住んでいるところの周りで何ができるか。少し広いエリアで何ができるか。できるだけ束になって、同じ課題の解決に向けて動き出すことがどこまでできるかということではないか。人の意識がかわっていく、これしかないと思っている。

委員から意見を述べてもらったが、共通しているところもたくさんあった。当委員会が共通の思いで取り組んでいくために、これからどのように進めていけばよいか。優先順位として、どういうところから動き出せばよいか、ご意見をお願いしたい。

岡本委員

コーディネーター、ファシリテーター、まちづくりセンターの職員と意見交換することがスタートだろう。センター長や職員の考え、これまでの取り組み課題、我々の考えとの整合性を見ることもできるという観点で進めていってはどうか。

柳楽委員

岡本委員が言ったように、まず現状を把握した上でいろいろなことを考えた方がよい。

川神委員

私も現場を把握することが第一だと思う。まちづくりセンターになって約1年たつ。そこでの課題や利用者の意見も含めて意見交換をする。また、コーディネーター、まちづくり委員会や地域協議会のトップとも機会があれば意見交換したいが、まずはまちづくりセ

ンターにかかわる人との意見交換からアプローチするのが一番だと思う。また、優先順位としてどこをやるか、共通認識を持っておかなければならない。そして聞いた意見をどう生かすか。課題はたくさんあるので、カテゴリーで分けて整理する必要がある。

西田委員長

やはり現場の意見が大事だということで、まちづくり委員会や地域協議会という話もあったが、まずはまちづくりセンターへのヒアリングや意見交換という提案があった。

芦谷委員

意見交換はよいが、入り口がセンター長なのか職員なのかコーディネーターなのかまちづくり推進委員会なのか。仕分けしないと、一緒にしてよい場合と悪い場合がある。そこをもう少し議論して決めたい。

西田委員長

どういうところからスタートするか、意見があればお願いします。

岡本委員

地区ごとの状況が違う中で、全体としてやるよりもグループ化も併せて考えてはどうか。センター長だけでなく職員の意見も必要なら、主だった者を1人2人上げてもらい、一緒にやるのも一つの手ではないか。センター長だけでは見えていない部分もあると思うので、実働する主な人も入れて、浜田だったら西部と東部に分けてやるといったことを提案したい。

村武委員

センター長だけでは見えてこない部分もある。地域によって、まちづくりセンターの協議会があると思うが、そこにはセンター長が出ているようだが、私としては委員が手分けしてセンターに出向き、センター長や主事の意見を聞けばよいのではと思っている。ここに集まってもらうのは日程調整も難しいのではと感じるし、表面的な意見しか出てこないのではと感じる。

岡本委員

議員が個別に行くことは既にやっていると思っている。我々は情報を共有しなければ、話が平行線になる気がする。おのおので行くのはできるはずだから、私はまとまって課題を共有することが大事だと思う。

村武委員

確かに各自でセンターに行っていると思うが、例えば委員が全てのセンターを網羅しているかという疑問を感じる。以前、総務文教委員会が幼稚園に行ったりしたと思うが、あの時のようにペアになって行くのがよいのではと感じている。ここに来てもらって共有するところから始めるのであれば、地域によって実情もかなり違うと思うので、上がってこない意見もあるのではないかな。

西田委員長

今はサブセンターを除き、センターだけで26ある。出にくい意見までを吸い上げるようなやり方ができるかどうか。やり方次第だと思う。

総務文教委員会の過去の例でいえば、委員が2人ずつ班になり、1班が二つ三つの幼稚園に出かけてヒアリングした。いろいろな意見を吸い上げようと思うなら、こちらもそれなりに汗をかいて出かけ

- なければと思う。
- 村武委員 できれば26のセンターに行きたいが、難しいのであれば地域でくくって、来てもらうことも可能ではと感じている。
- 西田委員長 委員の総意で決めていきたい。
- 芦谷委員 5地域あるので区分けして、委員は2人ずつで4班つくって、全部は無理でも代表するところを回って、1回はまちづくりセンターで意見交換をする。次にコーディネーターやまちづくりセンター職員、まちづくり推進委員会も大事だと思うがどうするか。
- 上野副委員長 いろいろなセンターを集めると言いたいとも言えなかったりするるので、少ないところを我々が聞き取ったほうがよい。
- 西田委員長 細かい情報を聞きたいが、一度に大人数が集まると遠慮するかもしれない。班編成という話もあったし、エリアに分けてという話も出た。
- 村木委員 8人の委員が同じ情報を共有することが大事だと思っている。個別に聞くと深掘りできるが、その人しか聞けないし、ここで発表するとなると時間もかかる。
- 芦谷委員 班で行って報告してもらい、紙ベースになったものを共有すればよい。全部を知ろうとすると大変だと思う。
- 岡本委員 今まで総務文教委員会や福祉環境委員会で聞き取りに行った状況を分かっている今発言している。共有していかないと課題を見つけるのは難しい。共有すればストレートに目的に向かっていけるのだから、そうすべきではないか。今までやってきたことをやっても駄目だ。
- 西田委員長 全員で行くということか。
- 岡本委員 全員で行ったり、来てもらうことも含めて。大勢だと意見が出にくいというが、まちづくりセンターの職員が、意見が出ないような活動はしてないと思う。いろいろなことを経験して、何を思っているかどんどん言ってくれると思う。
- 西田委員長 意見は出してくれると思う。センター側が大人数なら、誰かが代表で言うので、細かい意見を言うのを遠慮するのではという意味だと思う。センター側があまり大人数でない方が意見が出やすいのではと思う。
- 委員が一緒に行動しながらヒアリングするのが、共通認識のためにはよいと思う。地域ごとに分けて集まってもらい数回開催するか。個別に26というのはスケジュール的に厳しいと思うので、どのくらいにまとめてやるか。
- また、センター長と主事にヒアリングするのと、コーディネーターは分けてはどうか。コーディネーターだけで1回集まってもらい、当委員会とでじかに意見交換するのもよいのではと思う。センター長と主事との意見交換をどのようにするか。

- 柳楽委員 大事なのは地域の組織の課題だと思う。そこも聞くとすると、まちづくり推進委員会の数も増えてきているし、他の議会活動もある中で、手分けして全て回るのも難しいと思うので、あまり多くなりすぎない程度の地域ごとの集まりで意見交換するのが現実的ではないか。あとは、身近なまちづくりセンターには議員個人で行けるので、そういうことも含めてやっていけばよいと思う。
- 西田委員長 ヒアリングに回る際に、委員はまとまって行くか、分けた方がよいか。
- 柳楽委員 現実的に考えて、2人ずつに分けると1班が最低6か所は行かないといけない。他にもコーディネーターやまちづくり組織からも話を聞くとなるともっと数が増える。どのくらいの期間でまとめるかも含めて考えたほうがよい。
- 西田委員長 各会派から代表で選ばれた特別委員会なので、改選まではそのまま行く気がするのですが、期間はあと思うが、のんきに構えてもいけない。できるだけ早く、情報収集なり意見交換なり研修なり、動いたほうがよい。最終的にどういう提言になるかわからないが、我々が動いた中で感じたことをまとめて執行部に提言するためには、2年くらいは時間をかけてもよい気がする。
- 芦谷委員 提案だが、我々が4班に分かれて26館中四つ、計16のセンターを回る。10残ったうちの5センターはセンター長に来てもらって話をする。残りの5はまちづくり推進委員会に来てもらって話をする。そして、コーディネーターは別に話をするのはどうか。
- 柳楽委員 まちづくりセンターも大事だと思うが、地域の組織、まちづくり委員会の個々の現状が一番違っていると思うので、そここそ個別に聞いていく必要があると思うがどうか。
- 河上局長 まちづくり推進計画の資料編28ページにまちづくり委員会の構成が載っているので、これを参考に話を進めていただければと思う。
- 西田委員長 先ほどの芦谷委員の意見だが、残り10のうち五つはこちらに来てもらうのか。残り五つはまちづくり委員会との意見交換になるのか。
- 芦谷委員 まちづくり委員会も大事なので、まちづくりセンターに行く四つのうち、幾らかはまちづくり委員会に振りかえてもよい。それはここで決めたらよい。まちづくり委員会も大事なので、五つでは少ないかもしれない。
- 西田委員長 まちづくり委員会で意見を聞くときにはまちづくりセンターの意見はなしになるのか。
- 川神委員 そのエリアの中にいずれかの形で当委員会からアプローチすれば網羅できるという考え方なのだろうが、私は少し違うと思う。センターの課題はおそらく全部違うし、いろいろな要望や改善案を持っているので、聞くなら26のセンターの現場の意見は全部聞くべきと思っている。

西田委員長

11時15分まで休憩とする。

[ 11時 08分 休憩 ]

[ 11時 15分 再開 ]

西田委員長

委員会を再開する。この委員会として全センターを回れたらよいと思う。ヒアリングシートをつくって事前に各センターに送り、聞き取り事項をあらかじめ用意してもらい、班に分かれて現地でヒアリングする。ヒアリングシート以外のプラスアルファも聞き、それも含めて委員会で報告してもらい、皆で全26センターに行ったことになるような情報共有ができればよいと思うが、何か意見があれば願います。

村武委員

委員長が提案した手法がよいと思う。特別委員会をつくった意味を考えると、丁寧にやっていければと感じているし、まちづくりセンターの職員もこの特別委員会ができたことを知っており、関心を持っているし期待している。

先ほど柳楽委員と芦谷委員から、まちづくり委員会にもという意見が出た。そこも重要だと思うが、まちづくりセンターによってはまちづくり委員会と密接にかかわっているところもあるので、まずはセンターから実施してもらいたい。

柳楽委員

以前、総務文教委員会が1日かけて公民館を回った。そういった手法を考えると、5地域ごとに1日かけて回る方法もできると思う。それなら全員で回ることも可能だと思う。

西田委員長

委員全員で全センターを何日かけてでも回るという意見が出た。1日1地域なら延べ5日となる。

柳楽委員

弥栄は2か所なので、それほど時間はかからない。

西田委員長

他の委員はどうか。

川神委員

1館当たりの所要時間をどの程度にするかは別として、他の予定も見ながら、全員でマイクロバスで回る方針は悪くないと思う。

西田委員長

これに対して意見があるか。

岡本委員

私は地区ごとに集まってもらい、そこに我々が行く。それを何日かけてやる方法がよいと思っている。

西田委員長

今の意見は、例えば金城なら金城の各センターの人に1か所に集まってもらい、そこに出かけていくという意見である。

川神委員

全館回るのが一番望ましいと言ったが、岡本委員からの提案もある。大事なのは、我々が全館の意見を聞けることである。そういう切り口なら、エリア内に集まってもらい全委員が行ってその話を聞く、もしくは1館1館全部回るのも、全館の意見が言える状況をつくれるならそれでもよい。どこか選んで聞いてみるのではなく、全館の意見を聞くスタンスなら、どちらの方法でもよい。

西田委員長

全委員でまとまって、全館を何日間かけて移動するか、5地域に分けて、例えば5日間かけてヒアリングするか。それとも、地域ごとに複数のセンターの人に集まってもらい、そこに我々が出かけて行って意見交換をするか。事務局はどうか。

河上局長

メリットとデメリットがあると思うが、1か所に集まってもらいと恐らく代表者が1人だけ出てくると思う。こちらから見て回るのは大変だが、事前に言っておけば勤務している人はある程度集まってくれるし、その場の空気、建物、周りの環境などが感じられると思う。ただ、集まってもらほうが合理的だし、日程調整もしやすい。1日で全部回ろうと思うと1か所に1時間もいられないので駆け足になる。いずれにせよ、我々は委員の総意に従う。

西田委員長  
下間次長

皆の意見を聞きたい。

2人で4グループに分かれる方法もメリットとデメリットがある。少ないグループだと全館回ることもできるが、その場合はヒアリングシートのようなものを準備し、同じ質問をするなど共有認識を持つ必要がある。また日程調整も、総務文教委員会ときは各委員と施設で調整してもらったのでやりやすい。全員で回るとなると、全委員と相手側の日程調整をやらないといけない。

西田委員長

事務局が言うように、全員で回るなら日程調整が難しい。全員で回るか班で回るか。班編成した場合は、各センターには各班で日程調整するか、それとも事務局からしてもらうか。そういったことも含めて意見があればお願いします。

上野副委員長

8人全員が行ったら言いにくい部分もあるだろう。班編成で歩いたほうが、相手も話しやすいと思う。

芦谷委員

少人数で行くメリットもあると思う。正副委員長に案をつくってもらって、また話そう。

西田委員長

2人ずつ班編成してヒアリングシートをつくって事前に出す。回るのは26センター全部回るということでよいか。

芦谷委員

センター長やコーディネーターと会合をするなら全員でやればよいと思う。個々の班でやるのと全員でやるのとすみ分けをして、メリハリをつけたらと思う。

西田委員長

2人ずつの班編成で26館を全部回り、ヒアリングシートをつくって事前を送る。日程調整は各班が行い、ヒアリングシートに書き込むことと、いろいろな意見を聞いてもらう。

コーディネーターとは別個にやるということで、それはよろしいか。

( 「異議なし」という声あり )

これからの進め方としては、当委員会で2人ずつの班編成をして全館を回るということを決めてよろしいか。

( 「異議なし」という声あり )

岡本委員

そこまでは決定ということですのでよろしく願います。ヒアリングシートを作成は正副委員長に任せるという声もあったがどうか。

正副委員長にお任せしたいが、内容については、各委員が取り組み課題として出したものをリストアップして、各センターに問いかけるということをお願いしたい。

河上局長

班編成は委員に決めてもらえたらありがたい。また、いつまでにやるという、大まかな時期を決めてもらいたい。

岡本委員

班編成については、各会派から出ているし、地区のかかわりもあるので、正副委員長で調整してもらえたらと思う。

芦谷委員

4班で26館を回るのは、5月中旬までにやってしまうほうがよい。

西田委員長

班編成と地区割はこちらで考える。期間については、5月中旬までに26センターを回るという意見が出たがどうか。

( 「異議なし」という声あり )

河上局長

正副委員長に協力して班編成と行き先を提示するが、決まった後の施設側との日程調整は各班をお願いしたい。コーディネーターとの協議は別のものとして、並行して進めていく。

西田委員長

班編成、地区割、ヒアリングシートの作成については、正副委員長に任せようということによろしいか。

( 「異議なし」という声あり )

ではそのようにする。今日はこのくらいで終わりたい。

## 2 その他

西田委員長

次回の日程はいかがでしょうか。次回は班編成や地区割やヒアリングシートについて協議したい。

《 以下、日程調整 》

では次回は4月19日火曜日、午前10時から、第3回目の特別委員会を開催したい。

以上をもって、第2回の特別委員会を終了する。

[ 11 時 45 分 閉議 ]

浜田市議会委員会条例第65条の規定により、ここに委員会記録を作成する。

協働のまちづくり推進特別委員会委員長 西田清久